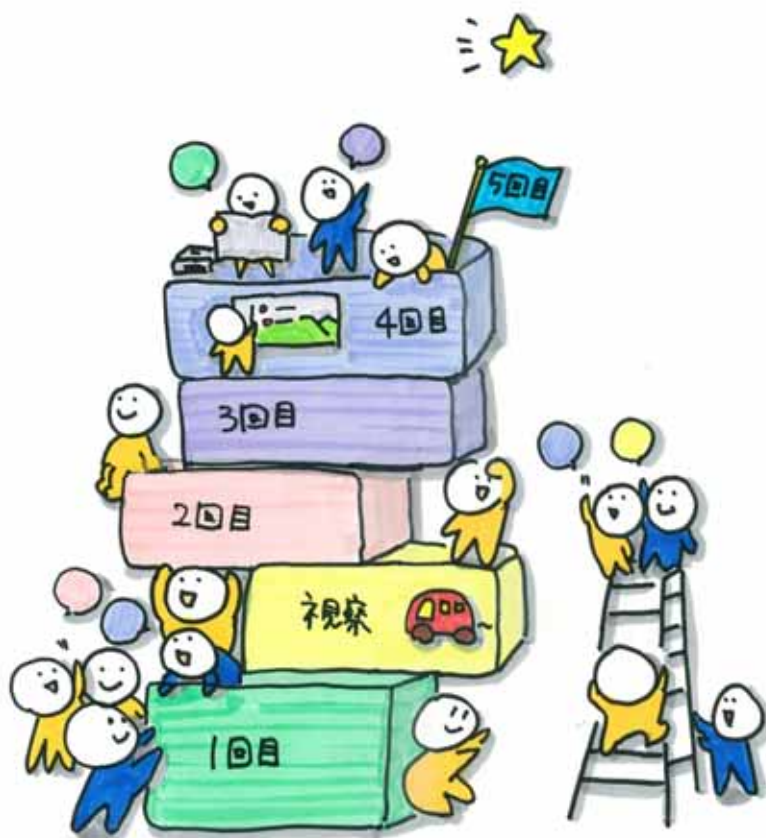


公共施設マネジメント基本計画の策定に係る

第5回 対話の場

資料



平成27年12月17日(木)

(牧之原市史料館 2階ホール)

牧之原市自治基本条例推進会議

1 振り返り

(1)第4回 対話の場

日時：平成27年11月17日（火）午後1時30分から午後4時30分

会場：坂部区民センター ホール

ワークショップ

テーマ

「施設分類別の方向性を深めよう！」

テーマ

「楽しい利活用のアイデアを考えよう！」

庁舎、学校、コミュニティ、観光の4つの分類の検討案（たたき台）を情報提供

グループメンバーを混ぜて、横断的に利活用のアイデアを意見交換

話し合いの様子

- ・地図で公共施設の位置を確認



アイスブレイクを兼ねて

- ・施設分類別の方向性の検討案を説明



市役所の担当から説明

- ・施設分類別の方向性を深める



- ・楽しい利活用のアイデアを考える



発表と投票

空き施設の活用などに係る意見が出た。



全体で投票
投票結果は別冊資料編を参照

2 今日の進め方



(1) 今日のゴールや内容の説明

ワークショップ

対話の場のまとめ案について意見交換し、この会のまとめをつくろう。

ワークショップ

対話の場に参加した感想、気付いたことを共有しよう。

テーブルのメンバーは、テーマ毎にしない。他のテーマの意見も聞きながらまとめよう。

(2) 対話の場のまとめ案について意見交換しよう！

- ・これまでの意見を基に、対話の場のまとめ案として、次の3つを整理

No	まとめ案	概要	話した会
1	大切にしている視点	マネジメントを進めるうえで、大切にしている基本的な考え方	～
2	施設分類別方向性	9つの施設分類別の20年間の視点での方向性	～
3	先導的な施設	4年間で具体的に取り組む、賢く使うモデル施設（プロジェクト）	

- ・事務局から3つの案を説明（第3回、第4回の意見は別冊資料参照）
- ・『説明を聞いて、感じたこと、付け加えたいことを自分達みんなが進める視点で』を書き出す。
- ・グループで意見交換して、まとめ案の内容を深める。

POINT 「自分達みんなで」

(3) 対話の場に参加して感じたこと、気付いたこと

- ・この会に参加した感想や気付いたことをどんなことでもいいので書き出す。
- ・グループでの意見交換、発表をして全体で共有

第5回目は最終回です。この対話の場としての意見をまとめます。

この場の意見を基に、自治基本条例推進会議の皆さんが平成27年3月に「施設分類毎の方向性、先導的な施設」について市に答申します。

その答申を基に市で基本計画をつくり、具体的なマネジメントを進めます。

3 対話の場における 大切にする視点（基本理念）案

計画を進めるための基本理念を以下のとおり整理し、対話による共感を通じて、この大切にする視点を基に公共施設マネジメントを進めます。

【視点1】 未来志向で考えよう！

- 1 20年後の将来に向けて、ワクワク感を持って進めよう



20年後の未来は、私たちが想像する以上に大きく変わっていると予測されます。既成概念にとらわれず、この変化に向けて、柔軟に発想や意識を転換します。

新しいことを積極的に取り入れ、デザイン性や使いやすさ、愛着をみんなで追求することで、魅力ある公共施設にします。

また、魅力ある将来の姿に向かうため、一時的な不便さにとらわれず、未来志向の価値観を大事にします。幸せは施設の数ではありません。

- 2 子や孫世代のため、覚悟とスピード感を持って進めよう

このまちの将来を担う子や孫世代の明るい未来のためには、今を生きる私たちが真剣に取り組まないとはいけません。

次世代に借金やツケを残さないため、状況の変化に合わせて考え、行動する勇気と覚悟をもってこの問題に臨みます。

この問題は、全国各地で起こっていることであり、時間が経つほど深刻化するため、スピード感を持って取り組みます。

- 3 優先度の高いことから積極的に取り組もう

未来志向で進める中でも、一步ずつ着実に前に進むことが必要です。そのためには、全ての分野を画一的に進めるのではなく、大切にする視点を基に重点的かつ具体的に手を付けなければなりません。

安心して子どもを産み育てる環境、災害時の対応などの防災、地域のコミュニティなどを通じた世代を超えた交流などを大切にしておこなっていきます。

【視点2】 賢く使おう！

- 1 今あるものを活かそう



未来志向での考え方で進めるとともに、現実にある施設の新たな使い方や価値

を発見することで、施設を賢く、有益に活用します。

原則として新たな施設はつくらず、今ある施設を活かします。残すことのできる施設は残して、現在の状況に合った使い方に賢く転換します。

日々の手入れなどの工夫をするとともに、利用する人達の主体性を大切にする
ことで施設への愛着を育み、大事に使うことで、できるだけ長持ちさせます。

2 新しい発想で有効活用しよう

公共施設の機能をその特性に合わせて、効果的に集約、複合化など行い、施設の機能を再配置します。

また、それに伴う施設の空きスペースを活用して、新たな利用需要に応えること
で、施設の総量が減っても、充実度が高まるような楽しい使い方を考えます。

公共性を持つ民間施設などとの連携を深めるとともに、民間の方が施設の設置
や運営に長けている分野の民営化を進めます。民間との連携や協力により、幅広
く、質の高い公共サービスの提供に努めます。

3 無理・無駄を省いて効率よく使おう

利用効率が悪い施設などの状況を分析し、無理や無駄を省く使い方を考えます。
また、耐震などの安全性が不十分な施設は、早期に改修または廃止を検討します。

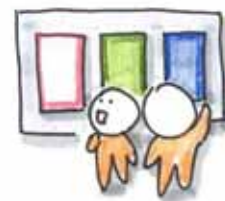
利用率の低い施設は、施設の面積当たりのコストが割高になるなど、公平性が
損なわれる恐れがあるため、他の用途への転換や複合化を進めます。また、夜間
や休日の利用などのニーズを確認し、稼働率が高まる使い方に見直します。

【視点3】 共感を大事にしよう！

1 状況や考え方を知ろう、知ってもらおう

公共施設の賢く、合理的な使い方を考えるためには、現
時的などを共有することが必要です。施設の設置者は、知って
努め、利用者もこれらの状況を知るように努めます。

また、施設の魅力や面白い使い方を発信することで市民
に愛される利用率の高い施設を目指します。



2 意識や考え方を共有する対話の場を設けよう

施設に係る方針やデータを整理し、この問題に対する基本的な考え方をみんな
で共有します。

また、公共施設には、多くの人の様々な想いが込められています。数は少なく

てもその施設に大切な想いを持つ人の意見にも耳を傾けるとともに、みんなで認め合い、支え合う相互扶助感を持って進めます。

3 みんなの知識、やる気を引き出す進め方をしよう

みんなの想い、疑問、アイデアなどを共有する対話の場を設けることで、学び、気付き、共感を通じて、この問題への納得感が高まる進め方をします。

また、空き施設の活用などについては、行政、市民、その他の関係者の英知を結集してまちの賑わいを創出する視点で考えます。

この問題に関わる人達の知識、やる気が高まることで、その才能を広げ、市民力を進化させるような進め方をします。

【視点4】 みんなでやろう！



1 みんなで考えよう

この問題は、一人一人の生活に関わる重要な問題であるからこそ、みんなが自分事として考えることが必要です。多少の不具合や不便さを感じたり、一時的な不効率があつたりしたとしても、市民全体の利益を考えて、市民と行政が一緒になって、みんなで取り組んでいきます。

2 自分達でできることは自分達でやろう

誰かが解決してくれると考えるのではなく、小さなことでも自分達ができることを考え、自分達から直ぐに行動します。

施設を実際に使用している人が、その施設の事を一番身近に考え、愛着と親しみを持っています。施設を管理する行政、使用する市民という関係に固執することなく、利用と負担を一緒に考え、みんなで維持管理する体制を実現します。

多くの人に関わることで、使いやすい、愛着ある施設に育てていきます。

3 市民力を発揮しよう

設置者と使用者が対立するのではなく、対話を通じて効果的に連携し、役割分担して魅力ある施設づくりを目指します。

また、地区などの自治会を中心とした生活密着型の組織を核に、その活用方法を主体的に考えるとともに、多様な能力や価値観を持った人が市の内外から集まり、様々な立場や視点に配慮しつつ、その能力を最大限発揮することで、公共施設を活用した魅力あるまちづくりを進めます。

【視点5】 まちづくりを考えよう！



1 牧之原市にあったまちの姿を目指そう

牧之原市は、温暖な気候、豊かな自然、多様な交通インフラの整備などにより、自然と調和した人やものの交流拠点として期待が高まっています。

牧之原市らしさを活かした魅力あるまちをつくるために、独自性のある公共施設の活用方法を考えることが重要です。

このまちに生まれ、育ち、暮らしている人達が更に住みやすく、このまちを訪れる人達が魅力を感じるまちづくりの視点で公共施設の問題を考えます。

2 みんなでまちのデザインを共有しよう

まちの将来のデザインをみんなで共有することは、このまちへの親しみや誇りを高める事にも繋がります。

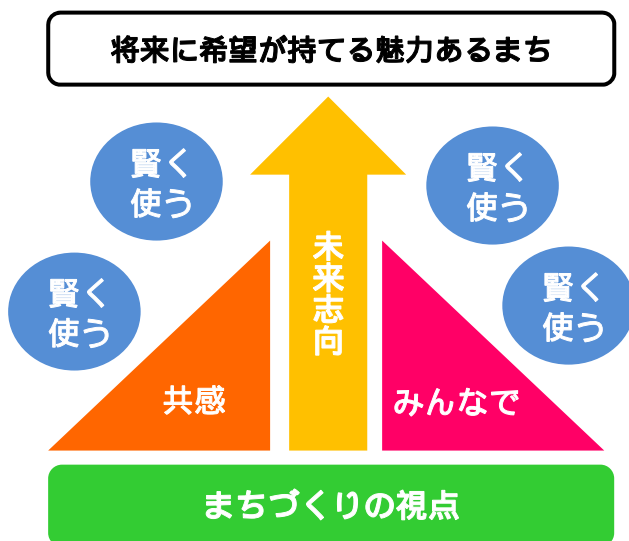
総合計画などの方向性と整合を図りながらも、まち全体や地区単位などの将来のデザインを対話によって共有し、その実現に向けて公共施設を活用します。

3 まちへのみんなの想いを大切にしよう

みんながこのまちに持っている想いや愛を大切にすることで、自分たちの取組がまちの将来に繋がっている実感を生むことが、周りの市町からも「おっ」と思われる取り組みに繋がります。

計画の実行性を高めるため、まちへのみんなの想いや愛を大切にした公共施設マネジメントを進めます。

【大切にしたい視点のイメージ図】



【イメージ図の説明】

まちづくりの視点を基礎に、未来志向の価値観を、共感を通じてみんなで取り組むことが支え、賢く使う方法で進める。

将来に希望が持てる魅力あるまちづくりを進め、住みたい・住み続けたいと思えるまちを実現する。

4 対話の場における 施設分類別の方向性 案



公共施設マネジメント基本計画における施設分類別の方向性を以下のとおり整理します。下線部分は、先導的な施設（プロジェクト）の中で横断的に検討します。

(1)行政・文化施設グループ

行政施設

- ・庁舎機能は、基本的に1つにまとめるが、窓口サービスの提供などに十分配慮した対応をとる。
- ・高台を含めた庁舎の移転は、長期的なまちづくりの視点で検討を続ける。
- ・まとめ方は、現在ある施設を賢く使うことを原則とし、市民が使いやすい構造や機能を確保する。
- ・まとめる先は、安全性などを考慮するとともに、空き施設の活用を含めて検討する。

文化施設

- ・史料館、民俗資料館、埋蔵文化財発掘事務所の機能を1つにまとめる。図書館は、既存施設の空きスペースを活用して施設の規模を拡大する。
- ・文化ホールは、安全性を考慮して榛原文化センターのホール棟を取り壊す。い~らは、全市で活用できる使いやすい施設とするため、既存施設の賢い活かし方を検討する。
- ・芸術文化、図書館などの機能を複合化することを、まちづくりと合わせて検討する。

(2)学校・体育・子育て施設グループ

学校施設

- ・小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、15年後を目途に中学校単位で小学校をまとめる。
- ・複式学級になることが見込まれる場合は、周辺校と統合する。
- ・学校の空き施設の活用については、まちづくりにおける複合利用の拠点とすることを全市的な視点で市民と一緒に考える。

体育施設

- ・学校施設の統合と合わせて、長期的な視点であり方を検討する。
- ・当面は、ぐりんぱる、相良総合グラウンド、静波グラウンド周辺を拠点として整備を進める。
- ・その他の体育館やテニスコートは、利用状況や他の施設の代替利用などを考慮したうえで、廃止や用途変更を検討する。

- ・プールは、単独の設置では利用効率が悪いことが課題であるため、公園、観光などとの包括的利用、民間施設との連携を基に廃止や見直しを進める。

子育て施設

- ・少子化や2歳以下の保育需要の増加などに合わせて、施設の配置を見直すとともに、認定こども園などの形態へ移行する。
- ・保育園、幼稚園は、民間による運営を基本として考える。
- ・直営で運営している園は、指定管理制度の導入を進める。指定管理制度を導入している園は、園建設時の起債償還を目的に民営化への移行を進める。
- ・民間法人と民営化に係る協議を進める。
- ・各園の方向性は、上記の方針を基に、個別計画の中で具体的に定める。

(3) コミュニティ、公園施設グループ

コミュニティ施設

- ・現小学校区の10地区を単位として、まちづくりの視点で施設を活用する。
- ・施設は、市が所管し、地区が運営することを基本とする。
- ・施設の老朽化などに対しては、学校の空きスペースの複合利用などを含めた質の高い、賢い使い方を地区と一緒に考える。

公園施設

- ・拠点となる公園は、地域、民間、NPOと連携して、その魅力を高める。
- ・維持管理費を見直し、コストを低減する。
- ・地域が主体的に管理運営に関わることで、使いやすい、楽しい公園を実現する。
- ・公園の魅力を積極的に情報発信し、利用率を高める。

(4) 保健福祉・観光産業施設グループ

保健福祉施設

- ・高齢者のデイサービスセンターは、民間施設の利用を基本とする。
- ・老人会館は、他の空き施設の利用により機能を移転し、施設は安全性を考慮し、早期に廃止する。
- ・高齢者の介護予防に係る施設は、健康づくりや世代を超えた交流を進めるため、民間との連携を含めて施設の利用方法や配置を検討する。

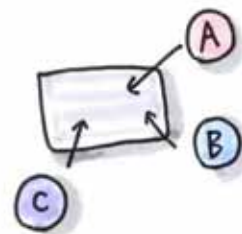
観光産業施設

- ・自然、歴史、食、スポーツなどをテーマに、魅力ある着地型観光を進める視点で施設の配置や活用方法を見直し、観光の魅力を高める。
- ・民間との連携を基本として、賢く使うことを考える。

5 対話の場における 先導的な施設（プロジェクト）案

施設分類別の方向性の中でもまちづくりの視点で横断的かつ重点的に取り組む施設であり、賢く使うためのモデルとなる施設を、先導的な施設（プロジェクト）として位置付けます。

庁舎施設の活用プロジェクト



【概要】

庁舎のオフィス機能の統合後にその空きスペースを活用して、当該地区の賑わいを創出するための拠点をつくる。新たな人の流れをつくることで、現状よりも周辺地域を活性化させる施設とする。

また、その地区が愛着を持てるコンセプトを盛り込むとともに、コミュニティ施設なども複合化することで住民の生活の拠点として、多くの人交流する拠点施設とする。

【機能のイメージ】

図書館、芸術文化、商業テナント、地区のコミュニティセンター、地産地消の物販、公的団体の事務所、その他公共性のある施設など

施設分類別の方向性の行政、文化、コミュニティ、保健福祉、観光産業関係

学校施設の活用プロジェクト

【概要】

学校施設を活用し、市民活動や文化活動を通じて、市民間の交流が促進されるような拠点をつくる。

学校施設には、多様な形態の教室があり、体育施設なども複合的に設置されているため、多様な市民活動の展開が期待できる。

また、この拠点施設の利用を通じて、旧町単位で実施されてきた市民活動や文化活動の市単位の一体感を高め、全市的な視点での展開を図る。

【機能のイメージ】

市民交流センター、生涯学習や公民館活動の拠点、青少年・高齢者の交流の拠点など

施設分類別の方向性の文化、学校、コミュニティ、保健福祉関係

6 連絡事項

対話の場は、本日で終了です。

対話の場の意見を基に自治基本条例推進会議が話し合った内容の報告会を以下のとおり開催します。

日時は、平成 28 年 2 月 28 日（日）午前 9 時から 12 時を予定しています。

会場などの詳細は別に通知します。皆さん、是非ご出席ください。



【事務局】

牧之原市政策協働部地域創生課（本間直樹）

電話：0548-23-0053 FAX：0548-23-0059

E-mail：seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

【メモ欄】

A large, empty rectangular box with a black border, intended for handwritten notes. It occupies most of the page area below the header and above the footer.